

令和7年2月28日

中標津町議会議長 後 藤 一 男 様

中標津町議会議員 松 村 康 弘

研 修 報 告 書

以下の視察について、次のとおり報告します。

- 1 視察名 文教厚生常任委員会道内視察
- 2 視察先 帯広市 帯広第一病院
- 3 視察日 令和7年1月27日（月）
- 4 視察事項 P N S看護方式について
- 5 成果（具体的に）

広域財団法人北海道医療団帯広第一病院は昭和49年に開設され、西4条南15丁目に平成9年に新築移転した駐車場側から見た佇まいは、まるで6階建ての高級マンションのような建物で、また、病床数は199で帯広市の二次救急輪番制病院となっています。

そもそもこの度の視察は、新聞紙上において看護師を二人一組で勤務にあたらせ、結果として離職数が大幅に減ったとの報道を受け、どのように運用されているのか研修をしようというものでありました。

あらかじめ目を通した看護部理念は

『患者様の尊厳を大切にし、質の高い看護を提供します。』

- 1 個人の人格と権利を尊重し、患者中心の看護を提供します。
- 2 専門職業人として自立し、自己研鑽に努め、成長し続ける人材の育成に努めます。
- 3 チーム医療を推進し、変革する医療に柔軟に対応します。

として、さらに専門職業人として行動できる看護師、患者さんのために行動できる看護師、人の心に寄り添い気遣いができる看護師、ポジティブに考え行動できる看護師の育成を目指すことが高らかに謳われていました。

しかし、対応にあたっていたいただいた看護部長の冒頭の発言は極めて残念としか言いようのないものでした。「昨年の診療報酬改定によりそれまで7対1だった体制が10対1に変更され、その結果ローテーションがきつくなり、20人ほどが退職してしまいました。」と聞かされました。

それでも気を取り直して、パートナーシップ・ナーシング・システムの概要の説明を受

けました。(以後PNS)

このシステムは福井大学で開発され、当時離職率 30%だった 2018 年にこの病院でも採用を決定し、福井大学に 2 名の職員を 2 週間派遣して基本を学び、当病院に PNS を実現したとのことでした。

PNS の実現により自己完結型の看護から二人三脚の看護となり、未熟な看護師の孤独感を解消しストレスの解消と、患者の観察時間や内容が充実し、例えば昼食時を交代で取るなどすると申し送りがいらなくなることが実現し、さらに病棟においてこの集団を午後 2 時ごろに業務を整理して、足りないところに再配置することにより、ほぼ残業のない退勤を実現できていることなどの説明を受けました。

その後、実際に業務を行っている病棟を見学し、二人で業務にあたる様子を拝見いただきましたが、一人が検温や血圧測定をする傍らで、もう一人がキャスター付きのパソコンにデータを入力していました。

私も一人で配管や修理の仕事をしていますが、最近、新製品の設置や前例のない修理などに遭遇すると、チームで業務がこなせたらどんなに精神的負担が減るだろうかと切に感じるがあります。

町立病院においても過去に今まで休んでいた看護師さんを再雇用して現場に投入し、そう時間が経たないうちに辞められてしまった事例の報告を受けています。

その意味で PNS は人に優しく、患者に優しい時宜を得た病院運営の手法であると考えます。

町立中標津病院にあってもこのシステムの勘所について学び、応用することがぜひ求められるのだと提起いたします。



帯広第一病院

4 視察事項 帯広市教育委員会 ひろびろチョイス

5 成果（具体的に）

不登校対策として G I G A スクール構想の実現の中で、バーチャル空間の中にフリースクールを開設し、要件を満たせば出席扱いとする対応を実地に見学いたしました。

帯広市においては、年間 130 名程度の不登校児童生徒が存在しており、その対策としてオンラインを活用した学習支援や体験活動等を通して多様な学びの機会を確保し、学校復帰や社会的自立につながっていくことを目的として教育委員会が設立しました。

説明をいただいた学校教育指導課担当者によると運営のコンセプトは 3 つ

Choice 選べる ・ Conneect つながる ・ Cheer 応援する

自分で学び、人とつながり、未来とつながる、そんなワクワクする場を地域の大人で応援するとなっていて、実際に案内された建物には指導員2名が常駐してバーチャル空間への入場受付から様々な学の空間分けと相談対応、電子図書館へのアクセスや退室の受付などを担っておられました。

児童生徒同士のやり取りも生まれ、午後からは実際に地域に出て実社会体験をすることもあり、子供たちの成長に可能性を見出したりもしましたが、現実にはチャットで指導員と対話のできる子が実際にセンターを訪れて、指導員と出会って時にはかたまってしまったとか、運営の未来はなかなか暗く、息の長い取り組みが必要なのだと思います。

次回はぜひとも生身のフリースクールを授業時間に訪問してみたいと思った次第です。



ひろびろチョイスの説明

- 2 視察先 美幌町役場
- 3 視察日 令和7年1月28日（火）
- 4 視察事項 申込バス「もーびー」
- 5 成果（具体的に）

新築間もない美幌町役場の3階に案内され、もーびーの運用のあらましを聞きました。朝夕の民間バスの運行の終わった間の時間、主に高齢者の病院やスーパーへの足として8人乗りのハイエース1台を町で購入し、ハイヤー会社に委託して運行しています。

電話による申し込みに対応して200mおきに設置しているバス停でお客を乗せ、300円の運賃で目的地へ送迎するというもので、年末年始休業のほかは土日祝日も運行しています。また、予約は受けないということで割引可能な共通券も販売されていました。

ハイヤーよりは安く、バスよりは便利だということで町民による愛好会などもできて、停留所の除雪をしてくれるところもあったりして、お墓参りのバス停を増やしたりして町民要望に応じているとのことでした。



質疑の様子

ぜひ試乗をしたいと望んだのですが、折あしく申し込みが込んでいてありませんでしたが、庁舎の窓から町内を走るも一び一の緑色をした可愛い姿を垣間見ることができました。

令和6年度の運行経費は800万円、運行収入は160万円とのことで、今後乗り合い率の向上を目指したいとのことでした。

基本的に黒字にはならない見通しですが、地域社会の高齢利用者の社会参加を促す福祉のための費用と考えているとの見解に、なるほどとうなずくことができました。

- 2 視察先 網走市
- 3 視察日 令和7年1月29日（水）
- 4 視察事項 網走市立郷土博物館・モヨロ貝塚館
- 5 成果（具体的に）

これから予定されている郷土館の収蔵庫のありようなどの検討資料とすべく、網走市の博物館等を視察しました。

網走市立博物館は建築自体が昭和10年の建築ということで、当時の博物館としての



モヨロ貝塚館内

位置づけを十分感じることのできる重厚な建物でしたが、いかんせん真冬の早朝に館内を見て歩くには、FFストーブは燃えていましたが寒さが厳しいものでした。

一方、分館のモヨロ貝塚博物館の方はオホーツク文化のありようや人々の遺伝的特質、亡くなった人を葬る儀礼の様子などとても興味深いものがありました。